糖尿病看護ケア研究会

代表：稲垣　美智子（金沢大学）

１．これまでの取組内容
２．具体的な成果
３．今後も継続して実施する必要性
４．今後の取組と期待される効果

１．これまでの取組内容

＜本研究会の目的＞

・糖尿病療養指導に関わるの人々のケア普及および質向上を目的とする
・糖尿病専門医の少ない能登北部および加賀地区での看護師の人材育成に貢献する
・毎年3～5回の研修会を開催し、糖尿病療養指導士資格取得に貢献する

＜活動内容＞

・設立以来、毎年3～5回の研修会を開催し、糖尿病ケアの基礎編および実践編、そして若年発症型1型糖尿病患者のケアについての研修を実施している
・糖尿病腎症予防など、その時代に必要な糖尿病医療における重点的な施策に対応できる人材育成のためにプログラム立案し、その目標達成に必要なケア、さらに組織やケア評価のための統計など総合的な独自の研修内容を展開してきた
・能登・加賀を中継で結ぶ研修会を開催し、地域格差の縮小に取り組んでいる
・研修の具現化を目標とし、事例によるグループ討論も取り入れている

２．具体的な10年間の成果

1.　研修会参加者

・平均約130人/年間。10年間で約1300人

・コロナ禍においても、webにて現場の対応の研修会を開催し40名の参加者を得た

2.　糖尿病腎症予防に関する成果

・療養指導に関する研修用テキストの作成：本会の理事20名が中心に作成

・研修会開催および講師のできる研修の受講生育成：40名がプログラム受講し、本会の研修会講師および、自施設の研修会を企画・運営した

・複数回の開催により、参加者によるネットワークが構築され情報交換が活性化された

3.　能登・加賀を中継で結ぶ研修会開催の成果

・地域の実情が見いだされ、独自のケア体制の発見や構築につながった

4.　日本糖尿病療養指導士の資格取得に対する成果

・全国でも上位レベルでの受験者および資格取得者数を維持している

３．今後も継続して実施する必要性

1. 変化する糖尿病医療環境への対応の必要性

糖尿病医療は毎年、高齢者の低血糖予防や重傷者への運動の必要性など、これまでと異なった知見や新たな見解が提案される。その対応は、いち早く津々浦々で具現化が必要である。糖尿病専門医が少なくなっている地域の現状を鑑みると、本事業のように、きめ細かく顔の見える参加者であることの重要性とニーズは高い。

2. 10年間の実績を生かし、山積する課題に一歩先んじた対策の必要性

研修プログラムは、毎年改善しながら積み上げてきた。高齢化や過疎化の進む地域での課題、コロナ禍という新たな出来事への患者や家族の対応の困難さなど、課題は山積である。この時期であるからこそ実績を活用した活動が急務である。

3. 糖尿病療養指導スタッフの精神・心理的なサポートの必要性

コロナ禍による糖尿病医療は大きく変貌しようとしている。患者の情報の入手困難や教育を受ける機会の減少などである。医療スタッフは、感染予防をしながら試行錯誤で新たな事態に挑戦している。確信の持てないケアも推測できる。この状況でのサポートとしての活動が必要である。

４．今後の取組と期待される効果

＜今後の事業の取り組み内容＞

1）新しい糖尿病療養の課題に貢献できる人材育成

・糖尿病医療は、コロナ禍を機に患者の受診方法を中心として大きく変化し、療養指導方法から新たなケア方法を模索する事になると予測される。これまでの組織力を活用して、課題を整理し研修に発展させる。

2）“糖尿病患者への偏見の是正”の活動を先駆的に示威しできる人材育成

・世界的な課題として“糖尿病患者への偏見の是正”が最注目されている。

3）自然災害など災害から患者や家族を守ることができる人材育成

4）合併症重症化予防に貢献できる人材育成の継続

＜研究会活動の継続・発展の方略＞

・これまでの参加者の継続フォローアップの積極的推進

・職能団体および石川県内の研究会との連携推進

＜継続して取り組んでいくことにより期待される効果＞

・患者や家族：質の担保されたケアを受けることができる

・医療者：“顔の見える”研修会はネットワーク構築に貢献し、糖尿病療養指導に、知識・技術、心理的な安定感が供与できる